秋が　きました

小川未明

青空文庫

にわの　コスモスが、きれいに　さきました。しずかな　秋(あき)の　いい　ひよりです。
ピイー、ピイーと　いう、ほそい　ふえの　音(おと)が　しました。
「ラオの　すげかえやが　きたから、この　きせるを　たのんで　おくれ。」
と、おばあさんが　おっしゃいました。
「はい。」
と　いって、きよは　うけとって　そとへ　でました。
しばらく　して、きよは　かえって　きました。
「いくら　さがしましても、ラオやさんが　みつかりません。」
と　いいました。
この　とき、また　ピイー　ピイーと　いう　音(おと)が　しました。
「あんなに　きこえて　いるでしょう。」
と、おばあさんは　おっしゃいました。
「ぼくが　さがして　あげるよ。」
と、武(たけ)ちゃんは　かけだしました。
武(たけ)ちゃんは、おうらいを　あちらこちらと　みまわしました。けれど、やはり　わかりません。

「ラオやさんは　どこに　いるのだろう、ほんとうに　おかしいな。」
と、武ちゃんは　ぼんやり　たって　いました。
空は　青く　はれて　いました。あの　はこの　ついた　車を　ひいて、おじいさんは　どこを　あるいて　いるのかと　おもいました。
「武ちゃん、やきゅうを　しない？」
と、ふいに　年ちゃんが　かたを　たたきました。
「いま、これを　うちへ　おいて　くるからね。」
と、武ちゃんは　こたえました。
「おばあさん、やはり　いませんよ。」
と　いうと、おばあさんは、
「ああ　そうかい、秋だから　遠方の　音が、ちかく　きこえるのかも　しれないね。」
と　おっしゃいました。
武ちゃんは　いそいで　はらっぱへ　いくと、もう　みんなが　あつまって　いました。正ちゃんと　良ちゃんは、あたらしい　ユニホームを　きて　いました。
「さあ、はじめようか。」
と、ピッチャーの　正ちゃんが　プレートに　たちました。そうして、たまを　にぎった　手を　たかく　あげると、みんなが　いっしょに　ブウー、と　サイレンの　まねを　しました。

その　こえは、ほんとうの　サイレンのように　とおくまで　ひびきました。
これを　ききつけて、あちらから、きみ子さんと　かね子さんが　とんで　きました。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集　16」講談社
　1978（昭和53）年2月10日第1刷発行
　1982（昭和57）年9月10日第5刷発行
初出：「コドモノクニ」
　1938（昭和13）年10月
※表題は底本では、「秋《あき》が　きました」となっています。
※初出時の表題は「秋ガ来マシタ」です。
入力：特定非営利活動法人はるかぜ
校正：Juki
2012年7月16日作成
2012年9月27日修正
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

秋が　きました

小川未明

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/